

JIMGAnews

第24号

RFタグの取付拠点数が100ヵ所超に拡大

平成19年より取り付けが開始された容器RFタグの取付拠点数が全国で100ヵ所を超えました。本年9月末現在、取付会社数は13社となり、全国で44万本の容器にRFタグが取り付けられています。

JIMGAではRFタグを利用した容器管理システムの普及を図っており、平成28年3月末までに310万本の容器にRFタグを取り付けることを目標に、RFタグの普及を推進しています。

容器RFタグは、既存のバーコードシステムに比較して情報量に優れ、流通の段階で情報の追加が可能であるという特長を持っています。この特長を活かすため、当協会ではRFタグとタグに記録する情報の仕様を統一しました。

RFタグは耐久性や読み取り性能に優れるため、バーコードを用いる容器管理システムをRFタグ化するだけでも作業効率の向上が図れます。さらにRFタグにガス充填工場、販売店、お客様の構内等、容器の流通過程で情報を記録し、その情報を共有することによって、より高度な容器管理を実現することができます。例えばお客様の前で使用済み容器を回収する際に、お客様の使用期間をその場で伝票に印字して提供することも可能です。



タグ付容器弁(左)と荷札型タグ(右)

またJIMGAでは、取引情報を電子データで交換する際の標準化も進めています。すでに電子データ交換標準化WG内でテストが開始されていますが、標準化されたデータ交換方式では、RFタグに格納されたデータがすべて受け渡し可能となります。これにより容器使用料の徴収に大変役立つツールが提供できると期待されています。

RFタグ普及促進キャンペーンについて

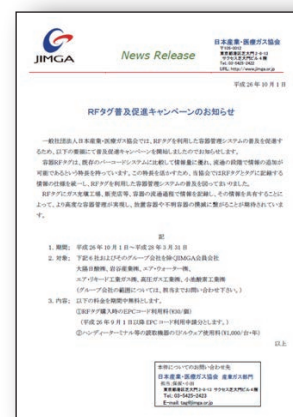
容器RFタグ運営委員会では、10月1日よりRFタグ普及促進キャンペーンを開始しています。平成26年10月1日より平成28年3月31日までの期間について、①RFタグ購入時のEPCコード利用料（¥30/個）②ハンディーターミナル等の読取機器のミドルウェア使用料（¥1,000/台・年）を無料とするものです。

容器管理システムの導入や更新を検討されている皆様は是非とも、この機会にRFタグの導入をご検討くださいますようお願い申し上げます。

キャンペーンの詳細は下記URLをご覧ください。

<http://www.jimga.or.jp/front/bin/ptdetail.phtml?Part=news-sangyo-20141001&Rcg=574>

(容器RFタグ運営委員会事務局・保坂 昭一)

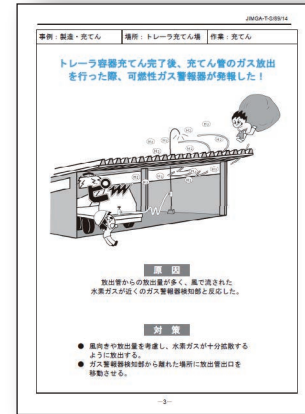


普及促進キャンペーンのお知らせ

「ヒヤリハット事例集(水素編)」の発行

平成26年5月、水素技術WGは「ヒヤリハット事例集(水素編)」を発行しました。この事例集は平成2年に前身の旧水素保安協議会技術部会が小冊子を発行していますが、これ以降見直しが行われていなかったため、今回見直しを行い新たにJIMGAの事例集として再発行しました。

掲載するヒヤリハット事例については、WG会員各社より近年に発生した主な事例を提出いただき、この中からより重要と思われる事例を選定しています。実際に水素の製造から消費まで携わっている会員各社より集めた事例ですので、取り扱う上で水素の性質・危険性をよく理解できる内容となっています。



本文イメージ

事例集の作成方法

事例集は以下の手順により作成されました。

- ①水素技術WG会員会社20社の中から8社を指名し、「ヒヤリハット事例集作成サブWG」を立ち上げました。
- ②WG会員会社20社より、各社のヒヤリハット事例をそれぞれ提出して頂きました。
- ③集まった事例をサブWGで内容を確認し、「製造・充てん」、「輸送・移動・貯蔵」、「消費」、「その他」の項目別に分類し、同じ内容の事例は集約しました。
- ④サブWGで各事例を十分に吟味し、より重要と思われる合計31事例を選定し、この事例に合わせたイラストを作成して添付しました。
- ⑤WGで内容を最終確認して承認の後、JIMGA技術審議委員会に上程しました。
- ⑥技術審議委員会の承認を得た後に冊子を発行してWG会員各社に配布し、保安活動に役立てて頂きました。

JIMGAウェブサイトへの掲載

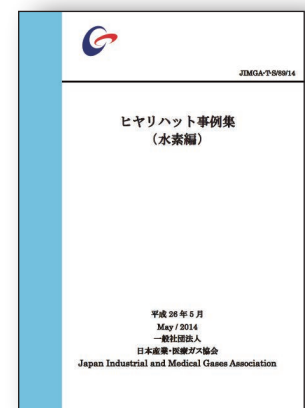
平成26年9月に「ヒヤリハット事例集(水素編)」をJIMGAのウェブサイト（産業ガス部門：図書目録・統計・事例集類NO.7）に掲載しました。

JIMGAの会員各社はウェブサイトより無料でダウンロードが可能ですので、皆様方に十分に活用して頂き、今後の事故防止や安全確保に貢献できれば幸いです。

最後にこの事例集の発行にあたりご協力頂いた水素技術WG各委員、イラスト作成にご尽力頂いたJIMGA東北地域本部の方々（特に鈴木様ご夫妻）にこの紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

JIMGAウェブサイト図書目録URL：

<http://www.jimga.or.jp/front/bin/cglist.phtml?Category=7074>



表紙イメージ

(技術・保安部会 水素技術WG事務局・彦坂 稔)

会員紹介 —四国アセチレン工業株式会社—

四国アセチレン工業株式会社は、昭和33年6月、四国地区最初の溶解アセチレンガス製造工場として愛媛県新居浜市において設立され、昭和60年に香川県丸亀市に本社機能を移し、現在創業56年目となります。丸亀市は金刀比羅宮（こんぴらさん）の参道口として古くから賑わい、うちの生産と石垣の高さ日本一の丸亀城が有名です。さぬきうどんに加えて、最近では骨付き鳥をB級グルメとして売り出しています。



熱風循環式塗装乾燥設備

当社は時代の変遷に伴い、工場も丸亀、徳島、西条の3拠点に増えた他、四国、中国に13営業所を設置し、取り扱う高圧ガスも溶解アセチレンをはじめ、酸素、LPガス、アルゴン、窒素、炭酸と様々なガスを充填するようになりました。平成10年には、高松空港近くにエネルギー技術研究所を設立し、LPガスを用いた省



太陽光モジュール

エネルギー設備の開発を行っており、最近では大手輸送機器メーカーに採用される等、少しずつ成果を上げています。

また、健康に優しい企業を目指し、工場遊休地を利用したテニスクラブ（12面）、ゴルフ練習場（250ヤード）の経営を行う他、環境に優しい企業を目指し、太陽光発電（3箇所・約4メガワット）にも取り組んでいます。

平成22年には弊社丸亀工場が、優良保安製造事業所として経済産業大臣表彰を受けました。これは一層の保安確保に励めとの意味に理解しています。これからも高圧ガスを取り扱う事業者の一員として、保安の確保と地域社会の発展に尽す所存です。

JIMGAとの関わり

四国でただ1社の溶解アセチレン工場となった弊社において、容器の保安確保と容器早期回収運動は極めて大切な事業となっております。日本産業・医療ガス協会（JIMGA）四国地域本部では、長期停滞容器回収推進WGにおいてWG長として、四国高圧ガス容器管理委員会の4県支部と連携を取りながら長期停滞容器撲滅に注力をしています。

また、JIMGA、四国高圧ガス容器管理委員会、販売店の組織である四国高圧ガス協議会が共に容器の保安と早期回収運動に取り組んでいます。所有者不明容器の回収と消費者の啓発には、行政との協力により容器保安リーフレットの作成、容器管理指針の作成等を行い、成果を上げていますが、消費者の容器をめぐる商慣習の改善へのご理解はこれからだと思います。JIMGA四国地域本部と手を携え、事業者、行政、消費者が一体となり、容器の保安確保のため努力する所存です。（四国アセチレン工業株式会社 代表取締役社長・大橋 正明）

“高圧ガス容器の放置”は絶対にダメ!!

“高圧ガス容器の放置”とは、
 溶解用ガス、LPガス（家庭用、レジャー用）、スクーバダイビング用空気、医療用ガス、フルオロカーボン（空調機用）、可燃性・毒性ガス（試験研究用）などのガスを充て込んだ容器（使用済含む）が管理されずに長期放置された状態のことを言います。

高圧ガス容器の放置による事故の例：

- 水産物市場に約8年間放置された酸素ガス容器が、容器外側の腐食による肉厚減少のため、ある日突然、内圧に耐え切れず破裂した。（平成17年6月）

破裂容器の状況（橋小浜第1 4m）
写真提供：高圧ガス保安協会

破裂しなかった酸素ガス容器
写真提供：高圧ガス保安協会

- 長期放置された高圧ガス容器（平成24年5月）

道への放置状況
写真提供：(株)日本産業・医療ガス協会

道への放置状況
写真提供：四国大環日報

☆高圧ガス容器は一般ゴミ、粗大ゴミとして出さないでください。
 ☆使用しなくなった容器は、ガスの入ったままでスクラップ処分業者に出さず、必ず販売業者に相談をしてください。

使用済みの高圧ガス容器は、すみやかに販売店へ返却してください。
 放置容器を発見した場合は、
 LPガス容器の場合：香川県エルピーガス協会
 TEL. 087-821-14401
 その他の容器の場合：四国容器管理委員会 香川県支部
 TEL. 087-886-1181

※事故発生時には、香川県、警察及び販売業者に連絡してください。
 問合せ先：香川県危機管理総局 危機管理課 TEL. 087-832-3190

香川県 販売店

容器保安リーフレット

新事務局員の紹介



名 前：桑木野 順朗（くわきの じゅんろう）

現住所：福岡県福岡市

出身地：鹿児島県

生年月：1959年4月

略 歴：1984年4月 日本酸素(株)（現太陽日酸）入社
 1993年4月 ガス事業部医療プロジェクト部販売
 グループチーフ
 2006年10月 九州支社ガス営業部副部長
 2012年12月 広島日酸(株)出向
 2014年10月 九州地域本部事務局長

趣 味：家庭菜園です。育っていく野菜類をただぼんやり眺めているだけで癒されます。妻は家庭菜園には興味がないらしく、今夏も久しぶりに帰省した際には大きく育った雑草の中で立派なピーマンがなっていました。

抱 負：30年を超えたサラリーマン生活で半分以上を九州で過ごし、九州の各メーカー様、販売店様に育てて頂いたと思っています。九州地域本部での活動の中でご恩返しできるよう、微力ではありますが邁進して行く所存です。



名 前：大沼 倫晃（おおぬま みちあき）

現住所：千葉県浦安市

出身地：東京都

生年月：1962年11月

略 歴：1985年4月 (株)ほくさん（現エア・ウォーター）入社
 同上 ほくさんエレクトロニクス(株)出向
 1994年9月 大同ほくさん(株) 医療事業部
 2000年4月 東海エア・ウォーター(株)出向
 2003年5月 エア・ウォーター(株) 医療事業部 医療政策部
 2006年10月 エア・ウォーター防災(株)出向
 2008年4月 エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター
 保安推進部
 2014年10月 JIMGA常務執行役員

趣 味：すでにシニアの領域になりましたが、草野球を楽しみ、少年野球のコーチなどもしています。また、バイクで近隣をひとまわりしてリフレッシュしています。

抱 負：主に環境・安全部会を担当します。JIMGAには医療、産業を問わず長らく携わってきたので、幅広い経験をもとに業界全体に少しでも貢献できればと思います。